

「世界の人びとを呼び込む観光協創プロジェクト」 平成27年度第1回推進会議の概要について

「世界の人びとを呼び込む観光協創プロジェクト」の平成27年度第1回推進会議を、平成27年8月19日(水)に開催しました。

今回の推進会議には、7名の委員のうち4名の方にご出席いただくとともに、会議の進行を補助するファシリテーターとして国立大学法人三重大学人文部教授の朝日幸代氏にご出席をいただきました。

会議の概要は、以下のとおりです。

「世界の人びとを呼び込む観光協創プロジェクト」委員及びファシリテーター

※敬称略、カッコ書は役職

〈委員〉

田上 至 (特定非営利活動法人ふるさと企画舎 理事長)

野口 あゆみ (特定非営利活動法人伊勢志摩
バリアフリーツアーセンター
事務局長)

※野口委員はご欠席

李 相海 (鳥羽シーサイドホテル国際担当)

※李委員はご欠席

桂 三輝 (三重県観光キャンペーン PR 隊長、
2代目よしもと三重県住みます芸人)

※桂委員はご欠席

岡田 英美 (近畿日本鉄道株式会社
伊勢志摩事業推進部 課長)

清水 清嗣 (鳥羽商工会議所 専務理事)

稲垣 八尺 (伊賀上野観光協会 専務理事)

〈ファシリテーター〉

朝日 幸代 (国立大学法人三重大学 人文学部
教授)

〈推進会議の進行概要〉

会議の進行概要は以下のとおり

開会 10:00

議題 三重県観光振興基本計画について

閉会 12:00



〈事務局からの説明〉

伊勢志摩サミット開催等の好機における、「忍者」「海女」などクールジャパン資源や「食」・「食文化」等の魅力を生かした誘客の推進、インバウンド倍増に向けた海外誘客等の推進など、三重県観光振興基本計画の改定の考え方等について、事務局から説明を行いました。

〈委員からの主な意見〉

〇ここ最近、外国人観光客の動きが変わってきており、大都市圏の宿泊施設が満室となっているせいか、宿泊するだけの観光客が増え続けている。そのような観光客に、付近の観光情報を提供してみてもどうか。再び三重に来てくれる可能性がある。

○情報発信の仕方次第で観光客を呼び寄せられる。三重県は英語版のホームページが少ない。多くの人に読んでもらえる英語版のホームページが増えるといい。

○看板や展示物の英文表記に業者が消極的で、案内表記が不十分なため、外国人観光客が困っている。苦情も寄せられている。

○観光客に、リピーターからプレーヤーになってもらいたい。リピーターに定住してもらう時代が来たのではないか。

○伊賀では空き家も増えてきたが、今後有効活用できたらいいと思う。

○三重のWi-Fi環境の改善について、利用者のことを考えると利便性を大切にしなければならないから、せめて交通機関内や観光施設内でWi-Fiが使えるようになればよいと思う。

○三重県への外国人旅行者は日帰りが多く、宿泊はよくて1泊。なるべく三重県に長く滞在してほしい。

○統計を見てみると、FIT(外国人個人旅行者)の方が、パッケージツアーの外国人観光客よりもお金を多くおとしていく可能性がある。

○レールパスについて、販売実績が右肩上がり一方で、三重県でレールパスを使用する割合は低く、京都・大阪・奈良で使う人が多い。

○地元の人やマイカーで、国内の人や車で訪れる、というのが三重県。三重県に来てもらった後の交通機関の使いやすさを考えていかなければならない。

○看板などの4カ国表記はもちろんのこと、気軽に乗れる路線バスなどの仕組みづくりをしていかなければならない。例えば、京都では随分前から観光客が交通機関を利用しやすい仕組みができています。観光ガイドブックには、ある観光地から次の観光地までのアクセスについて掲載されているものまである。三重県でもそのような取組を日本人向け、外国人向けの両方していくべき。

○今後、他地域と外国人観光客を取り合うことになるが、三重県には多くの資源もあり、サミットも開催予定であるのに、今は活かされていない状況。次の20年後に向けて、情報集めやアイデアの募集をしていかなければならない。



次回の開催予定

年内に次回推進会議を開催予定です。

今回の会議でいただいた提案は、今後の取組の参考とさせていただきます。